第９回松本市動物愛護管理推進懇談会　議事録

１　日　　時　　令和７年１１月２９日（金曜日）　午後２時から午後４時まで

２　場　　所　　松本市役所本庁舎３階　第一応接室

３　出 席 者　　委員長：竹田謙一
委　員：佐藤尚治、東條博之、等々力茂義、福澤美雪、降簱弘雄、箕輪さくら
事務局：久保田耕史、半田八重、平野路子、藤岡瞳（松本市 食品・生活衛生課）

４　懇談事項　　⑴　松本市役所保健所庁舎新築工事に係る動物愛護センターの構造設備等の検討状況について
※懇談事項については、非公開で行われたため報告事項部分を議事録として公開します。

５　議 事 録

⑴　前回以降の市の取組状況について

発言者	発言内容
竹田委員長	事故の発生件数の中でご説明をいただいたところですが、どういった状況で特に噛みつきですが、例えば散歩中なのかあるいは何かイベント時で連れてきたときにそういったことが起きてしまったのかとかをわかる範囲でお願いします。
平野（事務局）	状況は15件様々ですけれども、今年多かったのは、自分が犬を連れて散歩していて、知人と立ち話をしていて、目を離した隙に違う人がやってきて、それに向かって行こうとして、リードが外れてしまった例が何件かありました。 他には、いつもは散歩に連れて行かない奥さんが連れて行くとか、力の弱い奥さんから離れてしまったとか、元々番犬気質の犬を飼っていて、玄関の柵が開いていて、来た人に飛びついていったとか、状況は様々ですが、注意不足というのは大きいと思います。
東條委員	災害研修会を獣医師会でもやっていて、市からも参加していただいたんですけど、いろんなとこでやってるようなんですよね。 今回もアンケートでいろいろ皆さん書いてくれて、継続してやってほしいという意見がすごい多かったので、できればペットの災害研修会の市だけじゃなくて関係するスケジュールみたいのを年間で出してもらって、ここでやってますよというのがあると、皆さん非常に聞きやすくなると思うので、またご検討していただけたらと思います。
久保田（事務局）	貴重なご意見だと思いますので、できるだけ多くの皆さんの目に触れるようにやらせていただきたいと思います。
佐藤委員	多機関連携のところなんですけども、包括的支援連絡会議という名称らしいですが、重層的支援体制整備事業の事業をやってる中でのたてつけという認識でよろしかったですかね。
事務局（半田）	おっしゃる通り、重層的支援体制の整備の中で、福祉に関係する市役所内の部署の連絡会議と、それに関連する外部の団体を含めた外部との会議という二つの会議体がありまして、両方に今年から動物担当として出席させていただいているところです。

佐藤委員	これは定例開催という形になるんですか？
事務局（半田）	定例ではありませんが、年間５～６回会議がありまして、その他に関係者の研修会として事例検討とか、お互いの業務を知る発表が今年度は２回開催される予定です。
箕輪委員	総合防災訓練について、近年ではマンションもペット飼育可のマンションが多く、戸建てと違って垂直に戸数が増えるので、飼育頭数も増えていくという可能性があると思います。松本市内も中心部ですとかなりマンションが多くなっているので、優先度が高いわけではないですが、マンション内での対策というのは必要になってくるのかなと感じました。その上で、特に新しいマンションですと地震などではある程度対応できるというので避難所に行かないという在宅避難というのも考えられるかなと思います。在宅避難になると避難所に行くのとは別の、情報共有に関する問題ですとか、他の問題が出てくるというのがあると思いますので、まずは町会というところでの対応をしていただいて、その先としてマンションなどでの自助ができるようにという働きかけがあってもいいのかなと感じました。
竹田委員長	何か災害が起きても全員が避難場所に行くとも限りませんし、避難場所もキャパシティがあるので、場合によっては在宅避難ということもあるかと思いますが、どうでしょうか箕輪さんのお話を受けて何か事務局の方でコメントありますか。 あるいは先ほどのご説明でも、参加者の皆さんの方から、全体像が見えにくというコメントを受けたということも伺いましたけどもその辺りと含めて何かありますでしょうか？
久保田（事務局）	今回は自治会ということで、マンションにお住まいの方は対象ではなかったですが、やはり松本市内市街地もありますのでそういったところでの観光にいらっしゃった皆さんも含めての避難についても重要だと思ってますので、今いただいたご意見も含めまして、対応を考えていきたいと思います。
竹田委員長	特に今もありましたが、在宅避難の場合にどうしても情報が行き渡らないということも過分にあるかと思いますので、そういう皆さんには何かカード的なものでもいいですけど、困ったことがあったらここまでは支援できますよとか何か一言あるといいと思います。結局は同行避難と言いながらも一緒に避難はできないの？なんていうコメントもありましたのでそういう皆さんがちょっとでもご安心できるような何かシグナルといいますか、何か市側から情報発信があると避難される方も多少心にゆとりができるというか安心して避難所に行けるのかなと思います。
佐藤委員	今の話の延長なんですが、市の中で、ペット飼育をされている世帯数のボリューム数の推定とか、そういうのは出せるものなんでしょうか。何か調べればわかるものでしょうか。
久保田（事務局）	犬は登録制度がありますので世帯数もわかっておりますので、推定することは可能だと思います。 猫はご存知の通りでございまして、把握するすべが現状ではございませんので、難しいのかなと思います。
佐藤委員	アンケートとかをやるのも困難な感じですか。 要は飼育してるかしてないか、ペットを飼ってるかどうか。

久保田（事務局）	かつて県の方では路上で轢かれてしまったとか、そういうことで亡くなった猫の数などからどのぐらい飼われているかというのは推定をしたようなことはありますけども、正確なところは今現状では把握できないというのが実情でございます。
竹田委員長	ちなみに今、同行避難できる避難所は市内に何か所でしたっけ。
半田（事務局）	松本市は市内の指定避難所全てに同行避難をしていただくというふうに整理しております。 今、指定避難所が158か所ございまして、避難所まではとにかく来てくださいというところまでは決まっております。 行った後に一緒に過ごせるかどうかというのは避難所ごとで判断していただくというふうになっております。
竹田委員長	等々力さんにお伺いしたいんですが、猫のボランティア団体が急激に増えてると先ほど説明があったんですが、何かお心当たりといいますか、何かご存知ですか。
等々力委員	結局補助金をもらうのに、個人でもらえないもんですから3人以上の任意的に枠を組んでいうことで増えてるということですね。
平野（事務局）	ボランティア団体さんからの申し出が増えたということと、ボランティアさんからこういう話を聞いたんですけど、ということで相談にいらっしゃる方が増えたということですね。
竹田委員長	かなり今までと違って周知活動が功を奏したというふうに理解してよろしいんですかね。
久保田（事務局）	そうですね。やはり補助制度が認知をされてきたというのもあると思いますし、補助制度を受けていただくにあたって、地域猫ということで猫に餌をやったり掃除をしたりということで、お1人ではできないであろうと、最低でも3人くらいの人たちが集まってグループを作っていただかないと、地域猫活動ができないであろうということで、団体の方に限り、補助金を交付させていただいてるというようなことから、団体が増えたということでございます。
等々力委員	関連してなんですけど補助金の次年度の見込みとか、あるいはそれを今後増やしていただくために、何か我々ができることなんかありますでしょうか？
久保田（事務局）	来年度につきましては、これから来年度予算の成立を待ってということになりますけれども、希望的には今年度同様の予算を確保していきたいというふうに考えております。
竹田委員長	先ほどのご説明でももうかなり現状カツカツだというようなお話だったのでこれからさらに増えることを考えると、愛護団体の皆さんから声を大にして言っていただくのがいいかと。
久保田（事務局）	また今すぐにちょっと何ていうことはございませんけれども、またご協力いただける場面がありましたら、またお声掛けさせていただきたいと思っております。 よろしくお願いします。

降簱委員	書類の簡素化という話がありましたが、確かに年配のボランティアには難しいということで、書類の難しさから申請になれている団体に偏って交付されているような状況を聞いています。 書類の簡素化は本当にお願いしたいと思います。3人以上のグループでという状況もあるため、無理してグループ作りをしているが実際は1人の人が行っているというような現実もあります。 申請がスムーズにできる団体だけに偏ることがないような資金の使い方は考えなくてはいけないんではないかと思っています。
竹田委員長	今のご指摘は、決してある特定の団体だだけがやっててそこに（補助金が）行ってるというわけじゃなく結果論として、現状の申請の方式が少し年配の方には複雑過ぎてしまっていて、書類の書き慣れた方のところで活動が多く行われていますよと。ただ、その一方で、活動されてる方が、年配の方が非常に多くて気持ちはあるんだけども、手続きの観点からなかなかその気持ちが実行できないままに終わってしまって、諦め感もかなり漂ってる、そんなご指摘だったんじゃないかと思いますが、もちろん公的なお金を出す上で必要な手続きとは思いますけども前回、あるいはその前から確かこの手続きの話は話題としてずっと出ておりましたのでそのあたりどうでしょうか。何か改善できる見込みといいますか、次年度に向けて。
久保田（事務局）	市としましては、補助金ということでございますので、広く公平に使わなければいけないものだと思っております。交付の手続きにつきましては、いろいろご意見をいただく中で、可能な限り簡素化をしてきているところなんですが、やはりどうしても公金という性質上、必ず行わなければならない手続きがどうしてもございます。そういった手続きについては省略することが非常に難しいというところもご理解いただければというふうに思っております。また先ほど平野の方からも、改めて手続きについては、もう少し見直しをさせていただくと申し上げましたけども、できる限り市民の皆さんが使いやすいような方法、形ができるように再度検討させていただければと思っております。
箕輪委員	今のところに関連してですが、手続きの煩雑さというのは前から言われてたと思います。手続きに対応できている団体もあるということで、例えば手続きに対応できない団体が、手続きに対応できている団体に手続き面についてのフォローをお願いするという協力関係はできないものなのでしょうか。なぜ今この疑問を投げかけたかというと、行政の資源に限界がある中で、全部行政にやってと言うだけではやはり難しい。お互いに変わっていく必要があるのかなと思っています。今後手続きの電子化が進むと思います。先を見越したときに今対応できないからそれを簡略化するという方向に動くのか。今までできてたことができなくなる可能性もある中で他の人とフォローし合うとかそういう関係性の作り方をしていかないと、お互いによりよい状況にはならないのではないかなというのを今伺っていて感じたところです。 前回もこの話題で触れたかもしれませんが、やはりなぜ出すのかというのと、どれだけ出すのかというのを、筋が通らないと公金として出すというのは難しいと思います。増やすという話に持って行きたいのであれば、なぜ出すのかというところをより公的な性質をつけていく必要があります。本来、不妊去勢は自分でやるべきものなはずなのにそうではなく公金を使ってやらなければいけない理由・公の税金を使わなければいけない理由というものをつけていき、猫が好きではない方とか関係・興味がないと思ってる市民の方でも納得してもらえるような説明というのをつけていかないと、少ない資源の取り合いのなかで、そのパイを取るというのが難しいだろうなということは感じていまして、もちろん効果検証で出てくるものと合わせて、そちらも考えていく必要があると思いました。

久保田（事務局）	補助金についていくら出したらいいのか、いくら出すのか、いつまでというようなお話がございましたが、私も個人的な考えですが、いくらという明確なものはないんだと思ってます。最終的な目標はやっぱり人と動物が共生する社会ということですので、例えば、そこに猫がいてもいいよ、というような状況になるまでだと私は思っています。ですので、これはどのぐらいかかるか正直わかりませんが、人と猫のそういう関係性になるまで必要と思い今はやっております。
竹田委員長	飼い猫と地域猫との間では位置づけが違ってくるかと思いますし、当然飼い猫に関しては、松本市の推進計画の中でも飼育者の責任ある飼育というのが強く謳われてますので、そういった中では、私個人的な意見になりますけども地域猫と飼い猫では少し対応に差があってもいいのかなと、そのような感じもしますし、特に先ほど降簱さんからお話があった地域で活動されてる方たちはどちらかというと、その地域で何とかしようと対応されてる方かと思いますので、全部が全部同じような対応ができるかどうか何とも言えませんけども、書類を書く際に、支所の方で例えばサポートしてあげるとか、サポートっていうのは、代筆するというわけじゃなくてこれを書くんですよとか。そのぐらいは何かあってもいいのかもしれないですね。
佐藤委員	動画みたいなものがあれば、申請の仕方の流れみたいな、そういうのがあったらどんなもんなんでしょう。申請の手順をホームページかどこかで見れるところがあってそこを見たら、手順がわかる。これを窓口に出せばいいですという一連のパワーポイントの録画したバージョンみたいなものでもあれば、いいのかなと感じました。
福澤委員	少し前の話題に戻ってしまうんですが、咬傷事故について疑問を感じたのでお聞きするんですけど、ここ5年の中で一番今年度は発生件数が多くなってしまった年であるということでしたが、先ほどシチュエーションについてはご説明がありましたけれども、噛んでしまったというワンちゃんはちゃんと狂犬病の予防接種もしていて登録もされていて割と適正飼養されているといったような印象を受ける子なのか、ちょっとそういうところも無関心な飼い主さんだからこういうことになるかなとか、何かそういった関連性ってお感じになられましたか。
平野（事務局）	咬傷事故を起こした犬は、ほとんどの犬が登録と狂犬病予防注射そういった法的な義務を果たしておりました。そういったところはちゃんとやる飼い主さんなんですが、別のところに原因があって咬傷事故が起きたということだと思います。
福澤委員	もう一つなんですけれども保護猫ちゃんのボランティア団体さんもいろいろいらっしゃるかと思います。これから先、ボランティアさんのスキルについてもかなりちゃんと捉えていかないといけないかなと思います。
竹田委員長	等々力さん、ボランティアに結構温度差があるとのご指摘されたので、その関連でぜひお願いします。
等々力委員	結局一定の決まりがあるわけじゃないんですよね。結局その人その人によって考え方が違ったりしてて、ちょっと考え方が違えば分裂していくという業界でもありまして、避妊去勢はしましょう、というのはある程度みんな共通認識だと思うんですけど、中にはかわいそうだとかっていう人もいるかもしれないけど、ある程度ボランティア同士の共通認識というのも作ってかなきゃいけないと思います。
竹田委員長	はい、ありがとうございました。まだ話題は尽きないかと思いますが、上半期の報告につきましては以上にさせていただいて、事務局の方にお返しします。